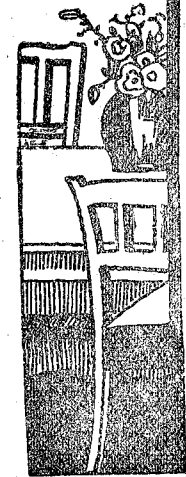


研究



東印度の歴史産業交通の概況

H
T
生

東印度の位置面積及び人口について

回顧すると昭和十六年十二月八日に大東亜戦争が勃發されて以來僅かに四ヶ月を経過した向十七年の三月七日には東印度占領地域に軍政を布告したのであるが、この東印度諸島の歴史産業交通を概観すると、元來東印度諸島なるものは西印度に對する地理學上の呼稱であつて、西は印度洋、東は太平洋に連らなり、而して亞細亞東南部の印度支那半島及び濠洲、ニューギニア等に圍まれる廣大なる洋上に散在する群島の總稱である。これを緯度的に見ると、アジア大陸西南部東經九十五度から百三十五度に互り、

北緯六度から南緯十一度に至る間に位して、東西約五千軒、南北二千軒に及ぶ大東亜海上に西から東に連なる世界最大の島嶼群である。即ち大小スンダ列島とモルツカ群島から成つてゐる大スンダ列島にはスマトラ・ジャワ・マヅラ・ボルネオ及びこれ等島嶼間に介在する小群島と小スンダ列島にはチモール島とジャワ島との間にある諸島嶼たるバリ・ロムボク・スம்பワ・フロレス・スンバ等の諸島嶼を含み、又モルツカ群島はハルマヘーラ・パチヤン・オンピラ・ブルー・セラム・アンボン・スーラ等所、セレス東方に散在する諸島嶼群の凡てを包含して大東亜戦争では元々和蘭の政治的支配下に屬して居たが故に蘭領印度又は單

に蘭印と呼ばれて居たのである。この東印度諸島の總面積は約百九十萬餘料であつて、我國全領土の約三倍に當り舊和蘭本國の領土に比較すると約五十六倍の廣大さに當るのである。更に歐露を除いたヨーロッパの約半分に相當するのである、而して人口は原住民即ちインドネシヤ人は約五千九百十萬餘、華僑は百二十三萬、和蘭人は約二十一萬となつてゐるが我國人は僅かに七千百人を數へるに過ぎない千九百三十年の國勢調査の統計の示すところである、而してこれ等人口の約七割はジャワ並にマツラに集合して居り殘餘の三割が廣大なる外領に散在してゐる有様である、従つて人口の密度はジャワ・マツラに於いては一平方料に三百十五人強の稠密を示して居るに拘らず、外領は百人強に當り全東印度の平均は三十一人九分と云ふ状態にてその人口増加率は一年平均一・五%である。

東印度の氣候と自然

而して東印度諸島は赤道を中心として南北各十度以内にある所謂赤道氣候帯に屬してゐる關係上概ね高温多濕にて一年を通じて殆んど變化なく灼熱ではあるが、西北に横たはる亞細亞大陸と南に控へる濠洲大陸との影響を受けてモンスーンとスコールとのために比較的凌ぎ易い感じがするのである。又氣温は海岸と奥地では多少の相違があつて其の平均氣温は二十六度乃至二十七度で

ある、雨はスマトラ島の北部では一年中遍なく降るも其他の地方では大體雨期と乾燥期の二期に分れてジャワ海及びスダン海峡では十二月、一月、二月の三ヶ月間は降雨量多く、六、七、八、九の四ヶ月間は比較的雨量が少ないのである、而して東印度の雨期は我國の雨期の如く三四日間もしとくと連續的に降り續くのではなく一日中に於いて一回乃至二回程驟雨的の降雨があり其のあとは克く霽れ上るのである、又風は一月には大體毎日北風の連續であるが赤道以北では北東風以南では北西風の吹くのは普通であるが最も風位の變る時季は三月頃である、四月に至ると赤道以南は南東風が吹き五月の風は西南に吹くのであるがジャワとスダのみは南東風である、十二月に入ると大體全部が北風に變るのであつてこゝでは烈風強風は無くパタン海の如き相當風力の強い方面でも風害のあることは稀れである。地震はボルネオとニエギニアを除いては火山帯に屬して居る關係上相當あつて被害も亦大なるものがある、更に河川に至つては東印度の各島嶼は相當大なるものがあるが、何れも島地の關係上高地の割合に平地は少なく航行の出来るものは甚だ乏しいのであるも何れも高温多濕に恵まれて居るから地味肥沃にして植物の種類は世界中でも最も多く、諸作物の發育状態も速かにして所謂自然に恵まれて居るところである。

歴史的に見る東印度

翻つてこの東印度を歴史的に觀ると西曆紀元前五世紀の頃に現在の佛印に居住してゐたところの馬來ポリネシア族が馬來半島及びスマトラを経てジャワ・マヅラに移住して、茲に村落を作つて三四世紀に互つて田野を耕やし、家畜を飼ひ漁獵をなし以て極めて原始的の生活をして居たことは和蘭にて編纂した東印度史に現はれてゐるが、其後印度よりヒンヅー族の移住と續いて支那人の渡來となつたが遂にヒンヅー人は先住民族である馬來ポリネシア族を征服して以てヒンヅー王國を建設したのである。而して中部ジャワに絢爛たる佛教文化の華を咲かせたことはポロブドールの大伽藍、チャンジ・ムンドウツトの佛蹟等を見ても判明するところである。其後文化の中心は漸次東部に移り西曆紀元十三世紀に至つて回教が傳はりこの回教徒が遂にヒンヅー王國を滅亡してジャワに回教主國時代を現出せしめたが十七世紀の中期に至つて原住民は和蘭に征服されたのである。彼のマルコポーロが千二百九十二年にスマトラに寄港し千五百二十一年にはポルトガル人のチモール占領等が動機となつて、歐洲人が漸次東亞に關心を持つに至つたのである。當時は未だ香料の貿易が主であつたのである。其後和蘭獨立戰爭の際當時西班牙王であつたフィリツツ二世が反旗を翻した和蘭人に對してリスボン港を閉鎖したので、和蘭

は東洋との直接取引を開始するために千六百二年例の有名なる東印度會社を設立して東洋貿易獨占の基礎を作り更に千六百十九年には和蘭はジャワにバタビヤ府を起して其の殖民政策に着手したのである。十七世紀の末葉に於て歐洲戰亂は和蘭の東洋殖民政策に一大影響を受け更に英國の東洋殖民地侵略は一時和蘭の殖民地經營を絶望に陥らしめたのである。千八百二十年彼の英蘭條約に依つて英國は専ら大陸に占據して和蘭は主として島嶼を領有することになつたので夫れ以來和蘭の巧妙なる懷柔政策は東印度の經營とジャワの開発に主力を注いで居たが、我國に對しては明察を缺いて曩に日本品の進出については輸入關稅を高め又滿洲事變、支那事變に於いては我國の眞意を誤解して門戶塞閉の舉に出でたるのみならず、敵米英等の勢力を過信して遂に我國を牽制せんと欲し彼の戰前ABC D線に参加して大東亞戰爭の勃發に至つて遂に敵陣に走り茲に三百有餘年に互つて領有して來た東印度の寶庫を喪失して仕舞つたのである。

人種言語習慣教育等について

而してこの東印度諸島に居住する原住民の狀況を概觀すると五十種以上に分れて従つて此等種族の多様性は必然的に二百種以上に及ぶ驚くべき多種の言語を齎らして居る有様である。原住民の主たるものは中部ジャワを中心として居住する二千七百八十萬餘

の爪哇族及び西部爪哇に八百六十萬程住むマツラ族を始めスマトラに二百萬程居住するミナンカバウ族を重なるものとしてプキス・バタク・バリー・パタビヤ・マレー・バンジャル・アチエー・ペレンバン・ササク・ダヤク・マカツサ・トラジャ等々枚擧に違ない程である、而して主たる人種は即ちマレー族とメラネシア族に二大別されて主要語はマレー語となつて居る。原住民の性質は温順であるが勤勉性には缺けて居て大部分は文字を解せず従つて知識の程度は頗る低率である。而して彼等は總數約七割までは農業労働者である、其の他は主として砂糖、護謨、農業に關聯したる仕事の労働者として使用されて居るが歐洲人は從來から支配的地位にあつて官吏は最も多く次に甘蔗、護謨其の他農業に従事し華僑は商業的地位を占めて殆んど經濟上の實權を握つて居る有様である。若し夫れ東印度民族の宗教に至つては總して萬有神教徒であつて受教性が強く殉教的である。風俗は各地各様であつて即ち爪哇の住民の如きは優雅なる姿をなして居るがニューギニア等では殆んど一身に糸をも纏はぬ住民も多數居る有様である。習慣は東印度諸島の住民を通じて共通してゐるものは總て回教の儀律から生じてゐるが其の主たるものは割禮を行ひ。早婚で多妻主義である、豚肉は絶対に食せないものである、又言語は住民の種族が多様なるために話す言語も土地に依つて種々雜多であるが、現在に於いては大體マレー語が一般通用語となつてゐて、此の言葉

なれば相當僻地に行つても用を辨ずることは出来るがマレー語に次いで和蘭語は歐洲人又は高級生活を營んで居るジャワ人の多くは使用してゐたが皇軍占領後其の保護下にある現在では日本熱が日を逐ふて盛になりつゝある。又教育は原住民中讀書可能者はジャワ・マツラに於いて男は九%女子は一%四平均五%五と言はれてゐるから従つて大部分は無學文盲である、小學校は現在約二萬校二百三十萬の學童を收容して毎年卒業生は約四十五萬とのことであるがこれでは文盲者を無くすることは容易のことではないと思はれるのである、中學校は九十七校あるが其の内六十三校はミューローと稱する高等小學校程度で甲種中學は數へる程しかない有様である、若し夫れ高等專門學校程度に至つてはパタビヤに法律と文科、醫科、農科の四大學があり、バンドンには工科大學があるがこれ等の高等教育も比律賓に比較すると遙かに立遅れて居る状態である。

東印度の産業と農業と鑛業

併て東印度諸島の産業を概観すると諸島は極めて農業に専まれ亦適して居るのみならず鑛産物に於いても多種類の埋藏量は極めて豊富である、乍併ら地下資源の開發に至つては交通及び勞力等の關係から最近まで未だ殆んど未開の儘に放置されて居たのである、これに反して農業方面は會社組織の農園農業と原始的生産方

法に依る所謂住民農業との二形態に區別さるゝことを得るが、會社組織の農園農業は邦人、華僑、歐洲人等によつて經營せられて砂糖、ゴム、茶、珈琲、煙草、規那等の輸出物を對象として經營して居る、住民農業は米、玉蜀黍、落花生等を主として原住民自身の生活必需品の生産を目的として居るのである、然し最近では原住民もゴム其他の輸出向農産物の耕作に轉向するものが増加して來たとのことである、砂糖の如きは最も重要な農産物であるが、ジャワとアヅラに於いて生産せられて其の輸出額は五千百萬ギルターを超えるると云はれて居る。ゴムもまた其の産出額に於いて世界總産額の約三十三%を占めて馬來に次いでの世界第二位にある、最近の生産額は約三十一萬五千噸と計算されて二億九千八百萬ギルターの輸出産額を示して居る。今茲に東印度の最近に於ける農園主要生産物産額を統計に依つて見ると。

種類	昭和十一年	同 十四年	世界産額比例	單位萬噸
砂糖	五二・九	一五七・五	二九・二	四
珈琲	五〇・四	五七・一	一六三・五	
護 謨	一六・〇	一九・六	五五・三	
椰子油	一七・五	二四・三	—	
椰子仁	三・六	五・三	—	
茶	七・六	八・四	三八・三	
規那	一・〇	一・二	三・三	

研 究

となつて居る、次に鑛業は前記の如く未開發の状態ではあるが、夫れでも錫の如きは世界總産額の二七%以上を産出して第三位を占めて居る、時代の寵兒たる石油は主としてスマトラのバレンバン地方とボルネオの東海岸地帯に産出さるゝが亦其他の各地でも産出して、従來は殆んど英蘭系の會社が獨占して居つて、我國の關係したものは僅かに日本石油と三井系と和蘭石炭會社オーストボルネオとの共同出資に依るボルネオ石油會社があつたのみである。併乍ら未だ産油を見るに至つてゐなかつたのである、石炭は主としてスマトラとボルネオに産出して埋藏量は七億七千五百萬噸可採量は六億四千二百萬噸と云はれて居たのである、而して最近の精確なる産出額の調査統計資料は缺くが。

昭和十二年中の東印度に於ける錫石炭石油産出高

錫四〇〇萬噸、石炭一三六、〇〇〇萬噸、石油一一四、〇〇〇萬噸となつてゐる、この外に金はスマトラの東海岸ベンクルン・セレベスのミナハツサ地區及びボルネオの西海岸等に相當の金坑があり亦ジャワ東部のマデオン地區の坑區も相當のものであると稱せられて居る。亦マンガン鑛はジャワに在るがセレベス、アスファルト、磷黃等もある。鐵、鉛、亜鉛等も相當豊富に埋藏されて居ると推定されて居るが現在未開發である。

東印度の工業林業と貿易狀況

更に東印度に於ける工業に至つては概して現在は發達途上にあると云ふべき状態である、農業工業に附屬する砂糖及び茶、ゴム珈琲等の工業のみは相當見るべきものがあるも他は至つて微々たるものである、最近纖維工業が和蘭政府の奨励に依つて稍や擡頭しかつたが其他に石油精油工業も勃興し始めたのであると共に麥酒、製紙、製氷、セメント、酒精菓子、石鹼等の小工業も規模は小ながら現存して居た有様である、而してこれ等は大東亞戰爭勃發以前までは歐洲人の經營に屬してゐたものである、又林業はジャワのチーク材と云はるゝ如く代表的の産物であり、從來は全部官營であつて八十一萬八千ヘクタールの官有林の面積から伐採量は十七萬立方米と云はれて何れの島嶼も熱帯原始林に覆はれてゐるからチーク材の外にも各種の木材、籐竹、ダマル、コバル等を多量に産出するのである、而して現在までに開發されて居るのは直轄領と外領の海岸地方の一部分に過ぎずして他の大部分の森林は未だ原始林の儘になつて居る、牧畜業は土着民の副業であつて亦地形的關係からも發達はなして居らず又水産業も未だ原始的の状態である、従つて東印度には却つて毎年千ギルター内外の水産物を輸入して居る有様である、大體以上が東印度に於ける最近の産業の概要である、纏つて此等の産業と關係を有する東印度諸

島の貿易狀況を見ると、大東亞戰爭勃發前までは年々輸出超過を續けて即ち昭和十四年度に於ては輸出七億四千五百萬ギルター、輸入四億六千九百萬ギルターを示して差引二億七千六百萬ギルターの輸出超過であつた、其の輸出先は米國が一億四千五百萬ギルターにて第一位を占め次いで現在の昭南島であるシンガポールには一億二千四百萬ギルターであり和蘭の一億七百萬ギルターとなつてゐる、而して濠洲、英國、我國の順に及んで居る、輸入に於ては和蘭から九千六百萬ギルターにて第一位を占め、我國の八千五百萬ギルターはこれに次ぎ以下米國、獨逸、英國、シンガポールと云ふ順序になつて居たのである、茲に特に注目すべきことは我國は輸入額に於いて昭和七年から同十二年に至る迄は常に第一位を占め更に昭和十年には八千二百萬ギルターとして東印度全輸入額の三〇%を占めたのであるが同十二年度には實に一億二千四百萬ギルターの巨額に達したのである、和蘭政府は東印度に於ける邦品輸出に奮えて種々の制限を試みたる結果、昭和十一年頃から和蘭との比率は次第に狭められて同十四年度に至つては遂に和蘭からの輸入額は我國よりの輸入額を超過するに至つたのである、これを見ても我國の對東印度貿易は片貿易の傾向が著しかつたので、これが調整のために數次に互つて我國は誠意を以て和蘭政府と交渉を行つたにも拘らず和蘭當局の不誠意は遂に我國の努力を水泡に歸せしめたことは大東亞戰爭勃發以前のことである。

東印度の海運と鐵道道路

大東亞戰爭勃發直前までの東印度の産業と貿易はかゝる概要であるが交通方面に於いては元來東印度は多數の島嶼から成立して居る關係上海運は遠き以前から發達をして居るのに反して、陸上交通殊に鐵道道路は地勢と氣候等に依る建設上の障害と經營上困難なる諸點等のために一部の地方以外は極めて未發達の状態にあることは否定出來ないのである、先づ戦前までの海運交通關係を見ると、我國と東印度を結ぶには日本郵船の濠洲航路のメナド寄港と南洋海運會社の定期航路だけである、尤も今次の戦争前まではジャワ・チャイナ・ジャパンラインがあつたが現在では利用は出來ない有様である、佛印泰からの連絡と東印度各島間及び濠洲との航路は戦前まで和蘭汽船のケー・ビー・エム會社が殆んど獨占して居たのである、歐洲との間には盟邦獨逸系のハンブルグ・アメリカン・伊國系のロイド・トリエステイノの定期航路があり又和蘭系のロッテルダムロイド・ネーデルランド、ネーデルド・ローヤル・メールの三社があつた。尙ほ米國との間にはジャバン・ニューヨークラインとシルヴァ・シヤバ・パシフィック就航してみた汽船があつたが港灣としてはセレベスのマカッサール・メナド港爪哇のタンジョン・プリオク・スラバヤ及びスマトラのスラマン・パレンバン等は東印度の著名の港である、而して

この中にもタンジョンプリオクはバタビヤの東方約八軒にあつて一外港と三内港とから成つて東印度中の第一の港である、これが大體東印度と諸外國を結ぶ海上交通であるが、陸上交通を見ると、先づ鐵道は現在の總延長料は七千三百八十九軒である、この内ジャワとアツラに敷設されてあるものは五千四百十八軒となつて居る。又スマトラに敷設してある鐵道は千九百七十五軒である、従前セレベスからマカッサールに敷設されてあつた小鐵道は現在では營業不振のために廢止されて居る有様で他の諸島には全然鐵道敷設はないのである。今度はやはり産業開發文化の向上等々に至大の關係を有する東印度の道路關係を觀察すると其の道路の發達は比較的ながら非常に見るべきものがある、千九百十二年に於いてジャワに根本的な道路建設計畫が樹立されて以來工事は急速に進展して他面自動車の發達に促進されその施設は整備されて最近では外領にまで及ぶに至つたが、ジャワの道路の延長はアスファルト道路は八千六百キロメートルとアスファルト以外の鋪裝道路一萬四千キロメートル其他の道路四千キロメートルを加へて二萬六千七百キロメートルに達してある有様である。ジャワの西端から東南端のバリー海峽に至る所謂縱貫道路の完成からは各都市を結んで陸上交通を至便にしてゐる。かやうに道路は發達してゐるために従つて自動車の利用も極めて便利である、千九百三十九年度現在に於ける自動車敷は乗用車五萬千六百輛、バス九

千二百輛、トラック一萬二千七百輛と云はれてゐる。バス營業は許可制となつて居るが大部分は鐵道によつて兼營されて居る、尙ほ東印度には電車の敷設はなく人力車の如きも見當らないが自轉車は相當多量に利用してゐるやうである。

ジャバ島の主要都市について

最後に東印度の主要都市を見ると、爪哇島の西北岸にあつて東印度屈指の貿易港であり又蘭領東印度時代には首府であつたバタヴィア市は、如何にも閑靜幽雅なる風趣が眼に映じて第一印象を明るくするのである、色美しい更紗のサロンを腰に纏ふ原住民の運轉手がアスファルトで鋪裝してある大道を迂るやうに自動車を行かせて居るかと思へば馬車が悠々と通ふて居る、この市は近郊のメーステル・コルネリスを併せて人口約六十萬の大都會である市内の交通機關は自動車と馬車であつて人力車は一つも無く交通巡查は四ツ辻の眞中にある傘狀の小亭の下に立つて交通整理に當つて居る、商業區では正午頃から午後二時頃までの日照時は晝寢の時間各商店は鐵戸を卸して銀行會社の社員は多く各自宅や社宅に歸つて休息午睡するのであるが故にこの時間になると廣い街路の人通りは殆んど杜絶して了ふ位であつたが現在軍政下に於いてはこの舊弊は漸次改められつゝあるやうである。市街を貫流するチリウオン河の兩側の街路樹のある街路は一段と鋪裝も施設

も克く出来て居て其の街路は夜のドライヴに賑ひ又メーステル・コルネリスにはバンガローが散在して熱帯の大都會を忍ばせるのである、又バイテンゾルフはこのバタヴィアの南方六十軒にあつて一日數回出る急行列車に乗ると一時間十分餘自動車なれば約五十分で鋪裝の大道を走つて到着する、海拔二百六十五米ゲイ山腹にあつて森林中に立てられたる都市で茲には世界第一の熱帯植物園がある、今度の大東亞戰の空襲で時々ニュースに現はれたバンドンはブレアンガ州の首都で海拔七百二十米の所謂バンドン高臺の中心にあつて元は蘭印政府の陸軍、工務、國有鐵道、遞信、鑛山等の諸部が此處に置いてあつて人口十六萬餘の都市である、市街は新式の街路が四通八達して諸般の設備はよく整ひ街路清淨快適で東洋の小巴里の名があるところである。又ジョクジャカルタは中部ジャワの南岸にあつて同名の土侯領の首都たる古い都である、原住民街ではあるが市内は清潔にして街路整然として居り中央爪哇の一大市場として繁榮して居る人口約十四萬を有する都市である。更に東爪哇スラバヤ州の首都であるスラバヤは爪哇第二の大都會であつて港市としては爪哇第一の開港場である、即ちこれまで政治の中心地たる西のバタヴィア市に對して東の商業の中心地を形成してゐる都市である、この都港は爪哇全土の輸出入年額の三分の一を占める繁榮を示してゐる有様で我國との貿易上にも最も重要な關係にあつて三井、三菱、日棉、米棉江商

及び南洋海運等十指に餘る大商社の支店はこゝにあつて我國の對ジャワ貿易の本據をなしてゐる、人口は戰前三十四萬を算して内邦人は七百名程滞在留して居たのである、又スマラン市は中部爪哇の北岸の港市で人口約二十一萬を數へ東印度に於ける第三位の貿易港である、中部爪哇の主要産物である砂糖はこゝを輸出港として居る。

スマトラとボルネオの主要都市について

今度は世界第五位の大島であるスマトラの主要都市を見ると全體同島の鐵道交通はジャバ島に比較するも極めて不振であり東海岸州メダンを中心とするアチエー鐵道と西海岸州パタン市を中心とするスマトラ西海岸鐵道とパレンバン州パレンバン市を中心とする南スマトラ鐵道の官營の外に、デリー鐵道會社線を含めて延長千九百料に過ぎないが道路は到るところ非常に發達して恰も良好である。アチエー鐵道の中心であるメダンは東海岸州の首都であつて農産物の大集散地として東印度に於ける屈指の商業地である人口は七萬九千餘の内戰前までの在留邦人は三百五十名であつた。又パレンバンは即ち度々戰局の進展につれて新聞紙上に現はれたところでスマトラ第一の都會である、市街はバンカ海峽に注ぐムシ河の河口から約七十八料の上流にあつて、スマトラ屈指の河港をなし各定期船は埠頭に横付けられる外小汽船は奥地へも

溯航するのである。此地は有名なる油田地を控へて近時異常の發達しつゝあるが、今次大東亞戰に於いては我が陸軍落下傘部隊に依つて昭和十七年二月十四日に占領せられた所である、人口は約十一萬程にして石油を始め珈琲、ゴム、石炭、胡椒、藤等の集散地として市況は頗る活氣を呈して居る有様である。パタンはスマトラの西海岸州の首都で同島三港の一つである、北岸の要港メダンの間には延長八百料の立派なる自動車路を建設されてあつてバスで七日間を要するさうであるが、今次の戰前には人口は五萬程を有して居た都市である、更にボルネオ島の主要都市に移るがこのボルネオは面積は我國内地の約二倍弱あつて世界第三位の大島と稱せられて居る、開發の程度は前記したるジャワ及びスマトラには及ばないが最も礦物資源と農林産物に富み東印度諸島中では最も將來性のあるものとして注目されてゐる大島である。交通は現在に於ては最も開發遅れて島内の交通機關は即ち鐵道は僅かに舊英領の北ボルネオに延長二百料を見るのみで鐵道の不備を補ふ道路も亦延長數に於ても踏面に於いても良好なるものは未だ少なく只だ北ボルネオ・ポンチアナク・バンジェルマシンの中心とする三地方は比較的に開かれてゐるに過ぎない程交通關係の發達は微々たるものである、従つて主要都市ではバンジェルマシンは人口約八萬を擁してボルネオ島第一の都會であるが、この附近にはゴムの産地は多量なるが故に市はこれ等物産の集散地として多

少賑つて居るに過ぎない。又ボンチアナクは舊蘭領内ポルネオ州の首都で人口約四萬五千と云はれて林産物の唯一の集散地として商業は盛んである、舊英領の北ポルネオ州の首都兼商業港である同島西岸第一の都邑サンダカン市は人口は約三萬程であるが市街はスルー海に臨む自然の良港サンダカン灣口から四哩の所にあつて、従來香港及び濠洲との間に貿易は盛んに行はれて千九百三十六年以來英領の首府となつて北ポルネオ政府各種部局が置かれて居たところである。今度はセレベスの主要都市を曰るとセレベスは東印度諸島中の第二位の大島で面積は我國内地の約半分に相當するにも拘らず人口は僅かに四百三十二萬餘と云はれ開發程度は全く將來に俟たざるを得ない状態にあるが、セレベス島西南半島の南端部の西岸セレベス海峡に面した港都市マカツサルは單にセレベス島の物資集散の港市のみならずモルツカ、ニューギニア、小スンダ列島及び東部ポルネオ等の産物集散地として賑つてゐる。町は新舊兩部から成つてゐて新市街は港に沿つて横に長く舊市街はフォード、ロツテルダムに續いてゐるが、綠樹の茂る廣場を中心として官廳州知事官邸等あり、また全島の首都として茲に守備隊憲軍兵學校、無線電信局等は設置されて居たのである、人口は約八萬六千を數へられて東亞人は一萬白人は三千人で他は原住民族である、又マナド市は人口三萬程であるがメナド州廳の所在地でセレベス島の北東端に位してゐる港市である。港は海岸よ

り急に水深が深きために投錨に適せず港灣設備も又頗る貧弱である、この港市は附近に産するコブラ、コヒーの輸出港として早くから開けたところであるが商業の點では前記のマカツサル港市には及ばない状態である。而して小スンダ列島ではバリ島は略ぼ我國の壹岐と對馬とを併せた位の大きさであるが現在百萬人と云はれてゐる程人口は甚だ稠密であつて、島内の交通は未だ鐵道敷設はなく従つて自動車、馬車が其の代用をしてゐるため島内には立派なる道路は四通八達してゐる、故に主要都市間の旅行はこれ等の代用車で容易である。シンガラヂヤはバリ島の北岸にある港町で本島第一の都邑で人口は一萬餘ある、街の道路も亦克く整つて居て博物館ホテル等もありバリ島とロンボック島とを統治する知事が駐在して居たのである、又キンタマニはバリの諸都市では最高の地點にあつてクロンコン又はギヤンヤールから北上する途中に彼の有名なる前バン王居住地でこゝに珍し住民市が開かれるベンリがある、バンリからの道路は良く耕された田園や丘陵地を過ぎて次第に登りとなる其の第三十九と第四十五里塚との間にベネロカンと呼ばれる、山を切り開いた海拔四千呎に道路が出来て居る、其他小スンダ列島にはロンボック島の西岸にアンペン港、フロレス島には南岸にエンデイ港及びチモール島では舊蘭領の首邑デーリー港がある、更にモルツカ諸島ではアンボン島の首邑アンボン

は人口約一萬あつて小川を挟んで椰子園の中に美しい家屋を有する住宅都市であると共にモルツカ諸島中の最も重要な兩港である、又ハルマヘラ島はモルツカ諸島の中樞をなしてゐる大島であるが西岸に主要港としてジロロの街がありテルナア島には人口約五千を有するテルナア港がある、以上は大體東印度諸島の主要都市と街路の概略である。

最近の報に依る經濟事情

而して東印度諸島中でも最も主要なるジャワ・セレベス・ボルネオの經濟狀況について最近の報に依るとジャワの經濟の如きは由來南方でも最も進んだものであり、恰も敵米英の破壊が皇軍の神速なる鐵定に依つて輕微に止つただけに其の復舊と建設は著しく進捗してゐる。ジャワ糖は新設の公園によつて再發足し其他蘭英の支配した茶、珈琲、キナ等の特産品の企業農園、企業管理公園の手で適正に管理經營されてゐる、又食糧は戰前から自給出来るが我が蓬萊米の輸入と我が技術指導によつて更に増産が圖られ、棉花、黃麻、芋麻の栽培も好調である、生活必需品を中心とする雜品工業は原住民華僑の小工場、家内工業の進出と相俟つて生必品の自給體制は確立して居る、更に路道等交通も戰前以上に完備しつゝある更にセレベスは棉花はビルマ比島と並んで最も有望視され、收穫棉花は既に内地に還送さるゝと共に現地の需要を

充たしてゐる。米、コブラ、玉蜀黍等の増産は食糧の輸入を減少せしめ地下資源の開發は著しく促進してゐる南方ボルネオでは豊富な石油の産出を誇りチーク材を初め各種木材資源はまさに無盡藏といふべく、更に奥地探檢の結果は文字通り豊庫ボルネオを世界に誇示するであらうとのことであるが、斯様に大東亞共榮圏の建設は我國の大構想の下に着々と進展して東印度も亦米英の傳統政策たる分割調停に依る惡辣なる高壓極權下の搾取から脱してインドネシアの政治參與となつて、現はれ纏て明朗なる天地と化するのである。

かくして今次の聖戰は漸次インドネシアの民族にまで其の恩澤は浴ぎ、經濟原則に依つて有無相通じ、又これ等東印度の豊富な資源の開發は今後我國の優秀なる技術とその指導に依つて着々と實行に移さるべく、更に農産物の増産も夫々其の効果は期して見るべきものありと思はれるのである、而して開發事業に關聯して吾人の最も注目を要することは漸次奥地開發につれて所謂開發道路の建設に力を致さねばならぬことである、これ亦近き將來に於いては我國の優秀なる土木技術に俟たねばならないことは明かである。